

大学名：成蹊大学

ASPUnevNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します（加盟に関する相談も含む）	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	相談がなかった。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	5校のチャレンジ期間実施校について、訪問、メール、Zoom ミーティングにより支援を行うことができた。
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	ニーズがなかった。
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールの児童・生徒の他、地域住民などを対象に、講演会、ワークショップ等を実施した。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/news_topics/2024/16742.html https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/news_topics/2024/16435.html https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/news_topics/2023/16385.html https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/news_topics/2023/15072.html ・杉並区立向陽中学校（キャンディデート校）の授業に講師派遣を行った。 ・ユネスコスクールに認定されている成蹊小学校における校外学習（化石採集）に講師派遣を行った。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	ユネスコスクールに認定されている成蹊小学校、中学・高校と連携し、ESD 成蹊フォーラムを開催し、ESD 活動の実践報告等を行った。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/news_topics/2023/14805.html
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	機会がなかった。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせる	ホームページにて、ユネスコスクールの存在や意義について紹介している。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/esd_seikei.html

連携を促進します	ことができた。	
	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	ニーズがなかった。
	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ASPUnivNet 関東ブロックに加盟する大学（成蹊大学、玉川大学、創価大学、東海大学）間での連携を促進している。 ・ 武蔵野市教育委員会との共催で、小学生対象の講座「地球温暖化とわたしたちの未来」を実施した。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/news_topics/2023/15072.html
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	第4回関東ブロック大会を共催し、関東地域におけるユネスコスクールの活性化に貢献するとともに、地域外のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義についてアピールすることができた。
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	支援をしている成蹊中学校が、和歌山県のユネスコスクールと交流会を実現することができた。 https://www.seikei.ac.jp/jsh/schoolguide/diary/2023/16134.html
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。（例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など）	・ 昨年度より継続して、成蹊中学校の英国ユネスコスクール「Arts & Culture for Peace」事業参加を支援している。
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページにて、ユネスコスクールの存在や意義について紹介している。 https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/esd_seikei.html <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職課程の講義の中で、ユネスコスクールで何かできるか、受講生に考えてもらう活動をしている。
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	地球規模の環境問題、人権問題などに関する講義をとおして、ユネスコスクールにかかわる教育を実施した。副専攻制度のうちに、SDGsにおける「環境・地域」、「国際理解」、「人権・共生」の3つの側面に関する科目やそれらの「実践」に関する科目をバランスよく学べるようSDGs副専攻を設けている。 https://www.seikei.ac.jp/university/education/fukusenko.html
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連	機会がなかった。

	した調査研究を行うことができた。	
	④ その他	
6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	ASPUnivNet 関東ブロックに加盟する大学（成蹊大学、玉川大学、創価大学、東海大学）と連携して、第4回関東ブロック大会を開催することができた。
	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	ASPUnivNet 関東ブロックに加盟する大学（成蹊大学、玉川大学、創価大学、東海大学）と連携して、第4回関東ブロック大会を開催することができた。
	③ その他	